

シニア・ストラテジスト
山本 雅文

マネックス証券株式会社
www.monex.co.jp

ケーブル、軽ブル

<ポイント>

- ✓ 昨日は、BoE 議事要旨を受けたポンドの上昇や、豪 CPI 上振れを受けた豪ドル高が目立った。
- ✓ ドル/円は、米中古住宅販売の上振れを受けて 120 円手前へじり高だった。
- ✓ 他方、スイス中銀のマイナス金利適用拡大でフランが大幅下落した。
- ✓ 本日は、上昇トレンド回帰の可能性が高まるポンド/ドル(ケーブル)に注目。
- ✓ 中国景況感や RBA 高官発言からくる豪ドル安リスクに注意。
- ✓ ギリシャ関連ニュースは注意だが、ユーロ圏景況感はユーロ下支え要因。
- ✓ ドル/円はレンジが続くが、米経済指標はドル下支えの可能性。

昨日までの世界:個別材料でまちまちの展開

昨日は個別材料で個別通貨が動く相場展開となった。

ポンド/ドルは、BoE 4 月金融政策委員会議事要旨で、全会一致の据え置きは予想通りだったが、2 人の委員が、インフレが予想よりも早く回復するリスクがある中で据え置き決定は微妙なバランスだと議論したことが明らかになると、想定よりタカ派的で利上げ開始が予想よりも早くなるとの捉え方から 1.495 から一時 1.5080 ドルへ上昇、1.50 ドル台に明確に乗せてきている。ポンド/円は 178.5 円から 180.44 円へ上昇した。

豪ドル/米ドルは、豪 1QCPI で総合指数は前年比+1.3%で予想通りだったものの、コア指数(刈り込み平均と加重中央値の平均)が前期・市場予想の+2.3%から+2.4%へ上振れしたことを受けて、利下げ期待が後退し、0.771ドルから一時 0.7807ドルへ大きく上昇した。但しその後は米指標の上振れを受けた米ドル高により 0.77ドル台半ばへ小反落した。豪ドル/円も 92.3 円から一時 93.21 円へ上昇した。

ドル/円相場は、欧米時間に 119.35 円へ軟化する局面がみられたが、その後発表された米 3 月中古住宅販売が 519 万件と前月および市場予想を上回り、冬場の減少を完全に取り戻したことから、米 2 年債利回りの上昇と共に一時 119.96 円へ上昇した。ただ引き続き、3 月末以降の 118.5-121 円のレンジ内の動きは崩れていない。

スイスフランは、スイス中銀が昨日午後 9 時過ぎ、通常の四半期に一回の政策変更タイミングとは別に、

マイナス金利の適用除外対象を縮小すると発表したことから、タイミングのサプライズもあって大きく下落、ドル/フランは0.955フラン近辺から0.97フラン乗せへ、ユーロ/フランは1.029フラン前後から1.0428フランへ上昇、フラン/円は125円から123.40円へ急落した。

ユーロ/ドルは、ギリシャに関して ECB が事前に流れていたギリシャの銀行向け緊急流動性支援 (ELA) の担保掛目引下げではなく、上限を755億ユーロへ150万ユーロ拡大、また政府関連機関の現金準備の中央政府への集中により5月末までの資金を確保したとのギリシャ財務省からの見通しもあって、1.072ドルから一時1.0801ドルへ上昇した。但しその後は上値も重く、米指標上振れもあって再び1.07ドル台前半へ反落した。ユーロ/円は、128円台半ばでの強含み推移となった。

トルコリラは、トルコ中銀金融政策決定で外貨貸出金利引下げやリラ準備金利引上げなどのリラ安阻止措置を決定したものの、14日の事前発表の範囲内であり、政策金利は想定通り据え置かれたことから、発表後に下落、リラ/円は44.5円から一時44円丁度割れへ下落した。

南アランドは、南ア3月CPIが総合(前年比+4.0%)、コア(+5.7%)といずれも市場予想を若干下回ったがあまり反応はなく、むしろその後の米ドル高を受けた対ドルでの下落が大きかったことから、ランド/エンは9.88円から一時9.80円割れへ軟化した。

きょうの高慢な偏見: ケーブル、軽ブル

[今週の見通しはこちら\(4月17日付FX戦略ウィークリー\)](#)

[今週の経済指標カレンダーはこちら](#)

本日は中国4月HSBC製造業PMI速報、ユーロ圏PMI速報、デベルRBA総裁補発言(19:00)、米国では新規失業保険申請件数や新築住宅販売などが注目材料だ。

豪ドルは、中国の景気減速懸念が高まる中で、中国HSBC製造業PMIが悪化したり、デベル総裁補(金融市場担当)が景気下支えのために利下げの可能性を強調するなど豪ドル安誘導発言が出てくるリスクがあり、豪ドルのバイアスはどちらかというと下落方向だ。但し、鉄鉱石価格の上昇傾向や昨日発表の豪コアCPIの上振れを踏まえると、下値も限定的となりそうだ。

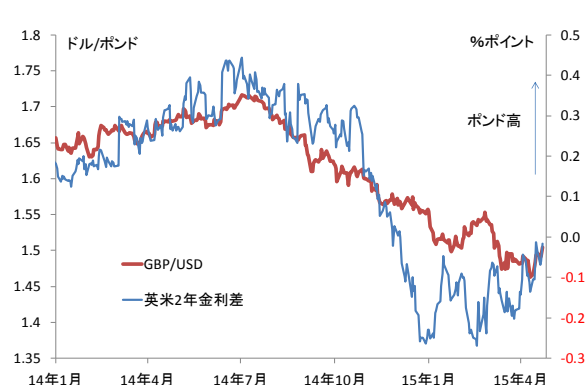
ユーロは、引き続きギリシャ債務問題が下落リスクとなるため関連ニュースに注意が必要だが、対ドルで底堅い展開が続いている中で、本日発表のユーロ圏PMI(総合は前月の54.0から54.4へ小幅続伸予想)が市場予想を上回ると、ECB量的緩和早期終了期待が高まる訳ではないものの、ユーロ続伸につながりそうだ。

ドル/円は引き続き3月末以降の118.5-121円のレンジ内で明確な方向観がない。なお、米経済指標では、新規失業保険申請件数の減少基調が確認されたり、冬場の悪天候の影響を受けなかった新築住

宅販売が大きく下落しなければ、本日の指標はどちらかというドル下支え材料となりそうで、その場合は一時 120 円乗せもありそうだ。

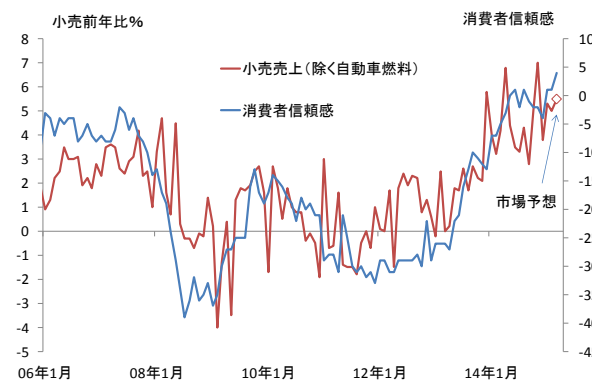
ドル/円、豪ドル、ユーロに強い方向観が見られない一方、上昇基調が強まってきている可能性があるのはポンド/ドル(ケーブル)だ。ポンドは 5 月 7 日の英総選挙結果を巡る不透明感(世論調査が拮抗し結果が読みにくい、二大政党が多数を取れない宙ぶらりん議会のリスク)から積極的な買いが手控えられるとみられていたが、4 月 13 日に 1.4566 ドルの安値をつけて以降反発基調が続き、1.50 ドルを回復している。本日発表の、明確な上昇基調を続けてきた小売売上高が、本日の 3 月発表分で市場予想を上回るようだ、ポンド反発傾向が続きそうだ。英米 2 年金利差も着実に回復し、ポンド/ドル相場の押し上げ要因となっている。

ポンド/ドルと英米2年金利差



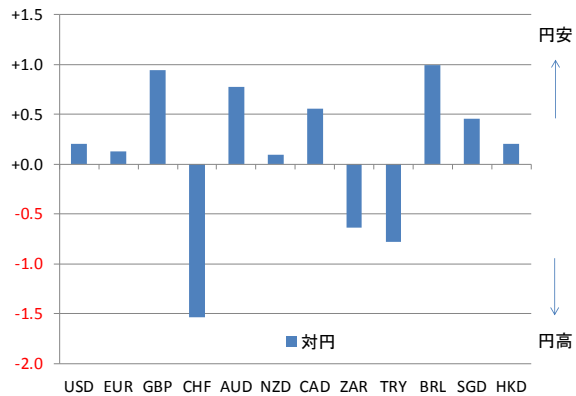
(出所) Thomson Reutersデータを基にマネックス証券作成

英国の小売売上高と消費者信頼感



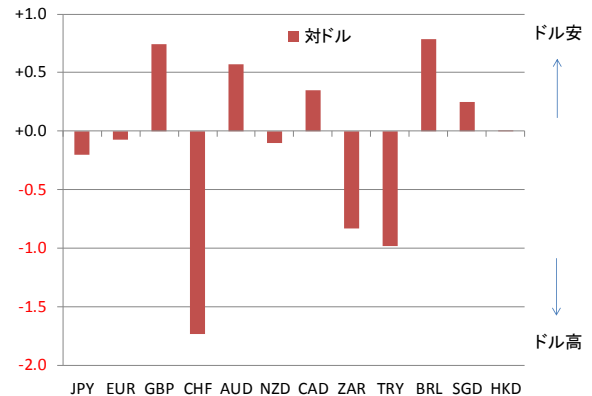
(出所) Thomson Reutersデータを基にマネックス証券作成

主要通貨の対円相場（前日比%）



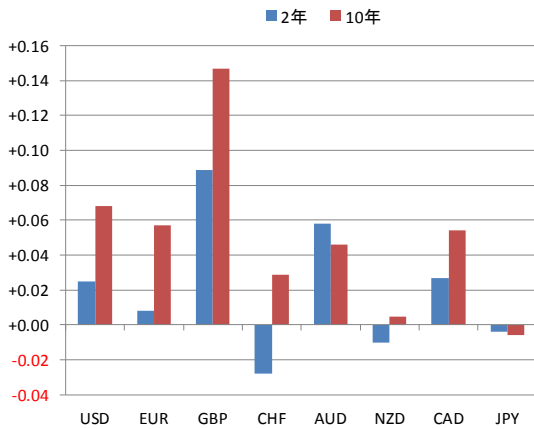
(出所) Thomson Reutersデータを基にマネックス証券作成

主要通貨の対ドル相場（前日比%）



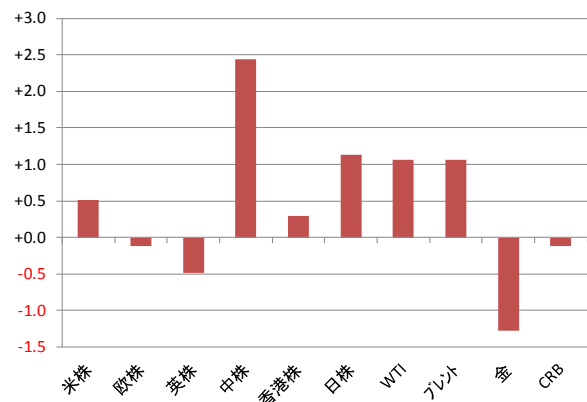
(出所) Thomson Reutersデータを基にマネックス証券作成

主要国の中長期債利回り（前日差%ポイント）



(出所) Thomson Reutersデータを基にマネックス証券作成

主要株価・商品価格（前日比%）



(出所) Thomson Reutersデータを基にマネックス証券作成

利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会